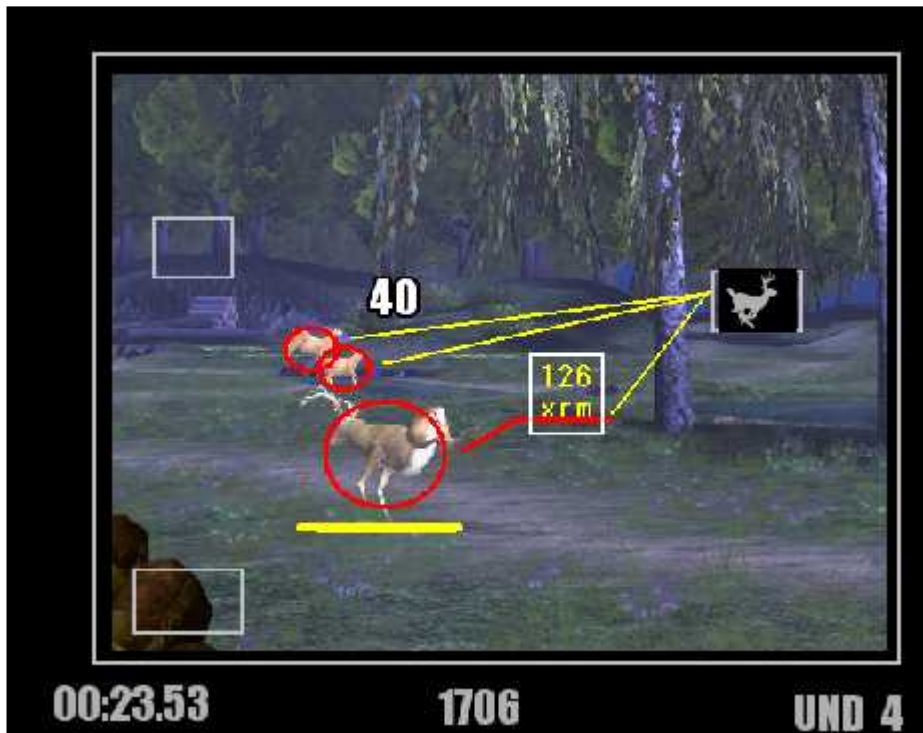




第 1.5 部

人間は、ターミネーターのように、世界を見ていることを説明しました



現実世界と、その現実世界を分かりやすく認識するために、C Gのような画像を重ね合わせて見ているのです

そしてそのようなC Gのような画像は、無意識が管理しているために、普通の人はこのように重ね合わされた世界を見ていることに、気がつきません

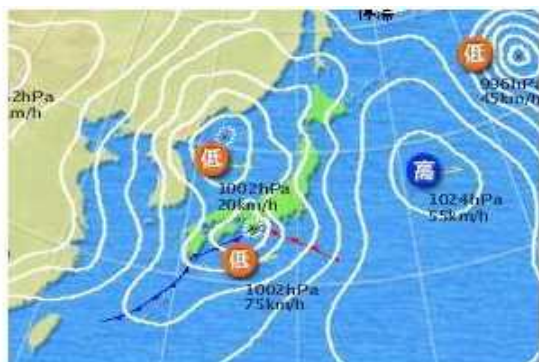
これは他の五感、聴覚や嗅覚・味覚・触覚でも同じなのです

たとえばある匂いが、本人にとっては懐かしい匂いだけど、他の人にはとんでもない悪臭であるということが、よくあります

これは**匂いは単なるきっかけであって、それが無意識に引き起こす**過去の思い出と、つながっているからなのです

ある人には耐えきれない加齢臭であっても、ある人には懐かしいおばあちゃんの匂いになっているというのは、こういうことが原因なのです

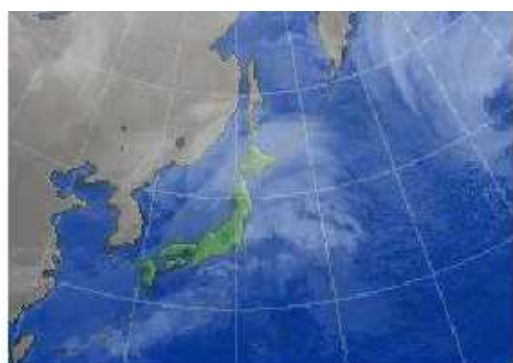
また、これは次のようにも説明ができます



天気予報で、天気図というのがあります

しかし、実際には天気図というのは、どこにも存在しません

実際に天気を空の上から見ると、地球上に雲が移動する様子が見えるだけです



それが昔ある時、科学者が地表のいろいろな地点の、温度や湿度や風速・気圧を観測することで、それを地図上に描き表すことを発明しました

そうして、その地図上のデータの関係を示す分かりやすい表現として、天気図が作られたのです

つまり、**天気図が作られるまで、「低気圧」や「高気圧」は、この世界に存在していなかった**と思われます

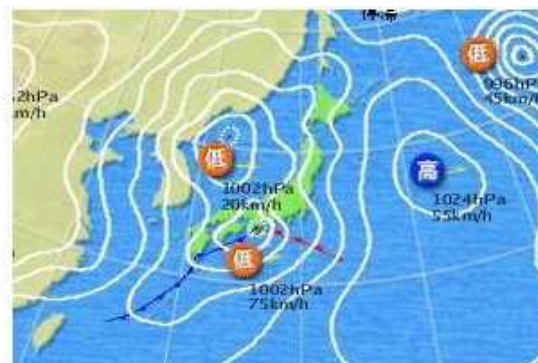
人間が発明した**抽象表現に言葉を与えて、初めてそれは実在する**かのようなものとして、認識されはじめたのです

温暖前線や寒冷前線や台風・偏西風のようなものも、天気図が作られるまでこの世界に存在していなかったのです



現 実

現実にはこれしか存在しない



気象庁のコンピューター内
の天気図

コンピューターの中にだけ存在する天気図

内部表現も、これと非常に似ています

実際の上空からの雲の映像に、「天気図」を重ねることで、天気予報の精度が上がりました

人間関係も、実際に見ている映像に、たとえば「人間関係図」というようなものを描いて、重ね合わ

せているのです



そうすると、怒っている人の顔からは、どす黒い煙のようなものが出ている表現になるかもしれません

片思いの女の子は、好きな人が通りかかると、目がハート型になって、胸からピンクの煙がでるかも知れません

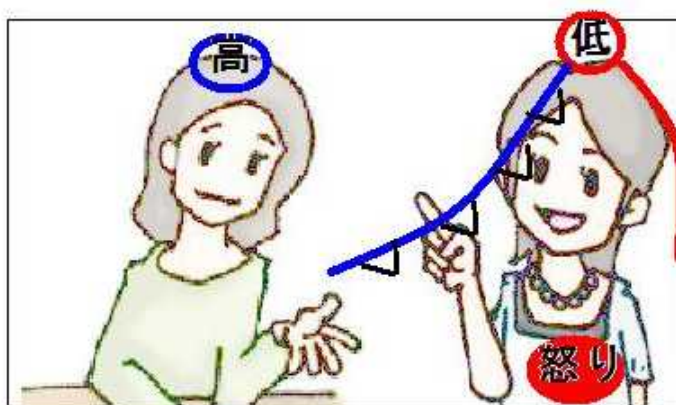
男は胸の大きな女性に会うと、目玉が胸に向かって飛び出るかも知れません

このような感情の変化を図で表現したものを、人間の無意識は作っているのです

そしてそのような「人間関係図」を、天気図のように、現実の風景と2重映しに見ています



現 実



内部表現

人間はこの二つを、重ねて見ている

これが、人間の実態です

これが、人間の「現実を見ていること」の実態なのです

そして普通の人には、無意識が行うこのような巧妙な仕組みを、感じていません

ですから、無意識が行う仕組みである「人間関係図」を書き換えられると、現実もそのように感じられて、書き換えられた情報に合うように変化させてしまうのです

これはまるで**気象予報官が、明日の天気図を自分の思うように書き換える**ことに、似ています

天気図の場合、自分の思うように書き換えても、実際の天気が変わることはありません

しかし、「人間関係図」の場合、猿の本能でお互いに内部表現を、連結させることができますから、そうなったときには、現実がそのようになってしまいます

そして、そのような方法で有効なのが「気」なのです

さきほど、天気図が発明されるまで、「低気圧」が存在しなかったことを思い出してください

これと同じで、「気」を実感できていない人には、「気」は存在しません

「気」を心の中でつくり出して、操れるようになった人にだけ、「気」は存在します

そのような**「気」ですが、存在しないと思っている人の心にも働きかけることができる**と、考えられます

なぜなら、本当は存在していない「天気図」や「低気圧」・「前線」ですが、それが存在すると仮定したほうが、天気予報がよく当たるようになったのです

それと同じことなのです

結論

気はあると思う人には実在するが、気の内容を知らない人には存在しない

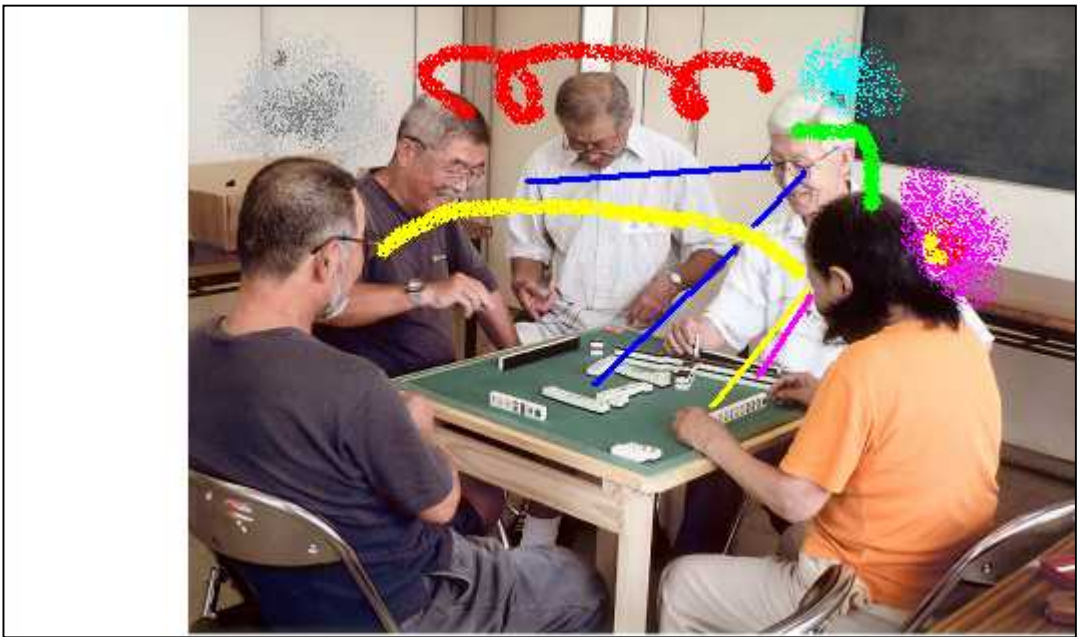
しかし、気の内容を知らない人にも、気は働きかけることができる

ボス猿的雰囲気とは、なにか？

たとえばマージャンゲームをしている状況を、現実と気が見える人の内部表現を比べると、次のようになります



↑ 現 実



↑ 気で見ている人の内部表現

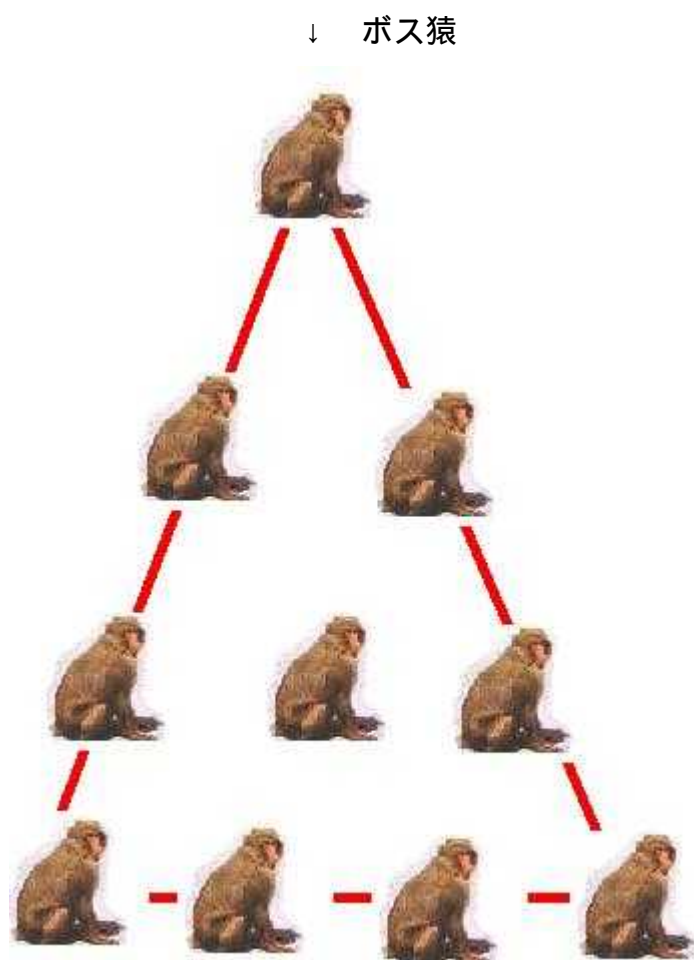
これと同じで、「氣」を実感できていない人には、「氣」は存在しません

そのような「気」ですが、存在しないと思っている人の心にも働きかけることができると、考えられます

こう言いましたが、このような感じでマージャンをしている人は、そうでない人に対して、勝負に勝つ確率が高くなります

なぜなら、「気」をとうして、対戦相手の心の動きが、そうでない人より把握しやすくなるからです

それでは、そんな人が「ボス猿の雰囲気」を持つ人になるのでしょうか？

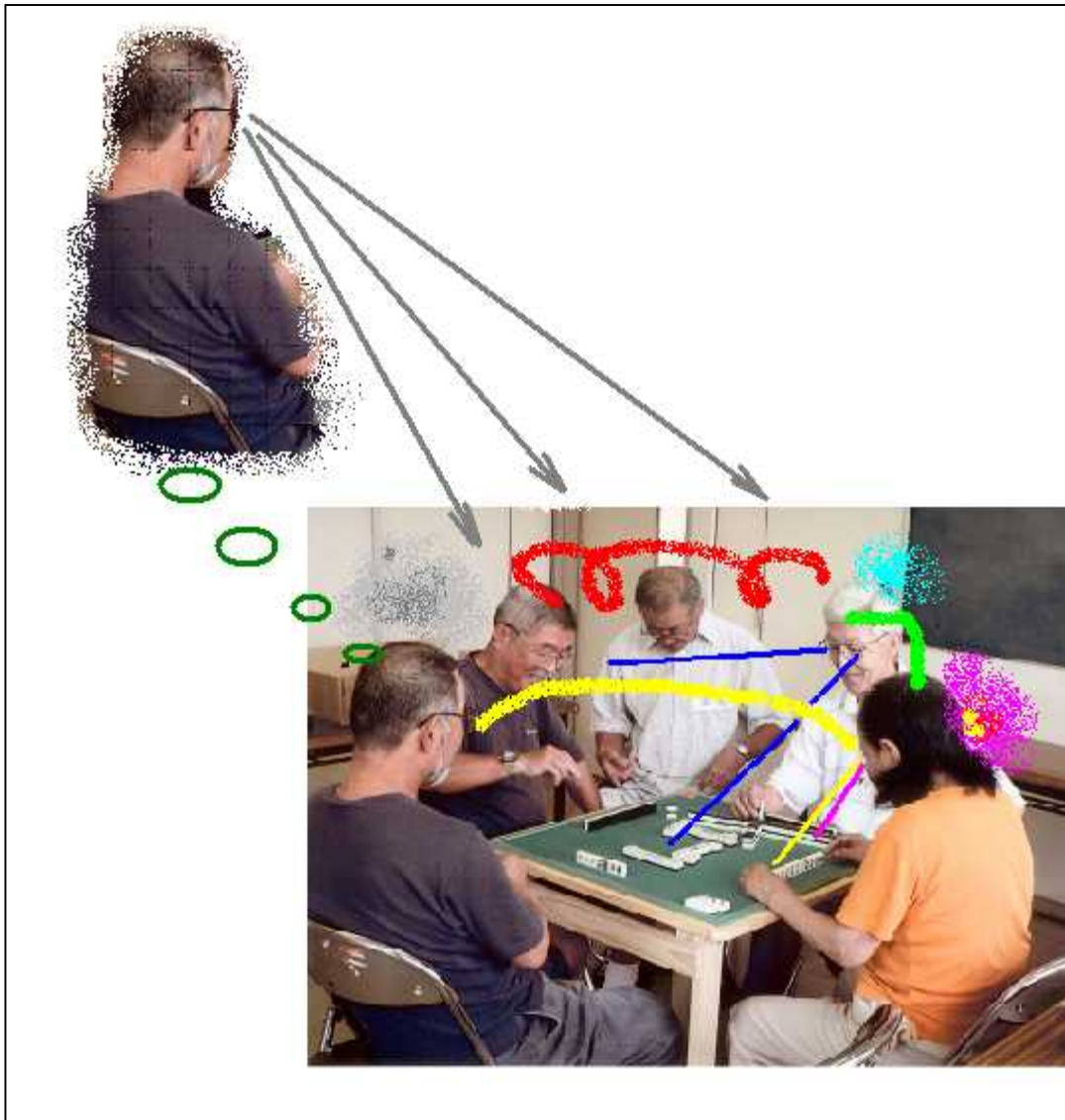


たしかに、「場の雰囲気」を感じているだけでも、勝負には強くなりますが、それだけではメンバーの信頼を勝ち得ているとは言えません

じつは、「ボス猿」とは、「高台から見下ろす視線」なのです

こういう視線を感じた手下の猿は、視線を発した相手に心理的に服従したくなるのです

マージャンで表現すると、次のような感じです



このような上からの視線を感じると、手下の猿は本能で「安心感」を、感じてしまうのです

そうして、負けても当然であるとか、くやしくないという感情を持ってしまいます

考えてください！

野性の世界では、群れのボスが獲物に一番を食べる「権利」を持っています

そして、群れのボスとは、狩りの計画を立案し、指示するものでなければなりません

その作戦が成功したとき、一番の立役者は獲物を倒したものではなく、狩りの計画を立案したものな

のです

猿のような高等な脳を持つ動物だけが、このような抽象的な群れの構造を理解できます

映画で言うと、主演俳優ではなく、監督が一番偉いのです
これと、同じです

つまり、「ボス猿の雰囲気」を持つ人とは、内部表現の中において、自分の所属する集団を外部から
見ることのできる人なのです

自分の所属する集団を外部から見ることのできる人とは、自分も含めた集団を客観的評価のできる視
点を持つことのできる人です

そうして、このような視点を持つ人が「気の感覚」を使って、集団の無意識をコントロールするときに、その集団は強くなります

職場においても、上司の持つ特性はこれと変わりません

有能な人間とは、下っ端のときからこのような視点を、無意識に持っています

そうすると周りがその人間に「ボス猿」を感じて、昇進するように自動的に（無意識に）動いてしま
うのです

これが**組織の中の、無意識の仕組み**です

ときどき中小企業などで、「ボス猿の雰囲気」を持たない人が、経営者になってしまうケースがあり
ます

そのようなときの、社員は不幸です

その会社は組織としてのまとまりを持てません

その会社の社員は、「ボス猿」の下での「安心感」を感じられないので、精神が安定できないのです

また、新しい「ボス猿の雰囲気」が入ってきても、無能なボスはそのような有能な人物を恐れて取り
立てません

ですから、無能なボス社長の下では、有能な社員が育ちません

もし無能なボス社長の下で、有能な社員が育った場合、その社員は「影の実力者」となります
そのような中小企業は、じつは多いのですが、内部の心理的構造が複雑なので、外部からはわかりに
くい組織に見えます

スッキリとした組織の方が、社員は安心を堪能できるのです

結 論

「ボス猿」とは、「高台から見下ろす視線」である

「ボス猿の雰囲気」を持つ人とは、内部表現の中において、自分の所属する集団を外部から見ることができる

このような視点を持つ人が「気的感覺」を使って、集団の無意識をコントロールするときに、その組織は結束する

このような視点を持ち、しかも気のコントロールができる人間は有能であり、しかも尊敬される

これは組織内の「知識」よりも、重要な特性である

